

## 2 研究発表 ①

「Covid19 対策としてのスクーリング代替課題の実施について」

宮城県美田園高校 教諭 佐藤 龍哉

昨年から今年にかけて中国武漢を発生源とする感染症が全世界的な流行となっている。これを一般的には「新型コロナ」と称するが、いつまで新型なのか。そこで最近では多くの方が単に「コロナ」と呼んでいるが、それは明確な間違いだ。この感染症の名称は Covid19 という。いずれにしても多くの学校現場では多大な影響を受けた。元々、登校機会の少ない通信制高校はある意味こういった事態に強いとも言えるがまた別の事情もある。今回は通信制のみたぞの高校で実施した Covid19 対策について発表する。

通信制では単位修得のためには3つの条件を全てクリアする必要がある。それは頭文字をとって「R」「S」「T」と書かれるすなわち「Report」（レポート）、「Schooling」（スクーリング）、「Test」（試験）の3つだ。元々郵送でのやりとりで行われるレポートはコロナ渦にも強いと言えるが問題はスクーリングだ。スクーリングはレポート作成のために行う面接指導であり、科目によって必要とされる出席時数が決まっている。スクーリングは毎週3回実施される（実施週によりS1～S18がある。また実施日によって日S、月S、個別Sという。個別Sは水曜日に実施）ので、例えば私が担当する「化学基礎」の場合は年間実施するスクーリング回数54回（18週×3）のうちいずれの時間かを選んで12回出席しなればならず、したがってスクーリングの実施回数は保証してやる必要がある。実施していないのに出席を求める訳にはいかない。

しかし2020年4月からそのスクーリングが実施できないことになった。これは異例の事態だ。そこで実施できなかったスクーリングを代替する課題を作ることになった。（これをS課題という）どのような課題を実施するかは各教科に任せられることになったが、主に以下の点に注意して課題が工夫された。

①教科内容の理解に資するものであること。

②S課題の提出が加重負担にならないこと。

私が担当する「化学基礎」および「科学と人間生活」では15分程度の学習動画を視聴してその内容についての設問に答えるという形を用いた。利用したのは科学技術振興機構の運営する「サイエンスチャンネル」の動画だ。化学基礎では「elements～メンデレーエフの奇妙な棚」を科学と人間生活では「ユータと不思議な宇宙の書アストロペディア」などを利用させていただいた。また科学と人間生活S8課題では以前から多くの生徒に見てほしいと考えていた植松努氏のTED講演会をこの機会に紹介した。S5課題以降改善して課題にQRコードを添付したのは好評だった。

### メールでのS課題提出

化学基礎、科学と人間生活ともに2回目のS課題から電子メールによる提出を開始した。生徒には返送レポートに同封して「メールを使ったS課題の提出について」を送付した。メールの利用率は化学基礎で32.7%科学と人間生活で10.0%と大きく差が付いた。紙での提出者にアンケートで「メールを利用しない理由」を聞いたところ、「紙の方が慣れているから」「紙が楽だから」「やりかたがわからない」などが多かった。確かに私の課題は多くの生徒が携帯で動画視聴することを考えたら、視聴と同時に設問に記入できる紙の方が使い勝手は良いだろう。またメールの場合筆跡等本人を特定できる情報が無いことにも注意すべきだ。したがって現状ではこの方法をレポート提出に応用できるとは考えていない。電子的な本人認証の方法などが確立しなければ難しいと考える。またメールによる解答の正答率は格段に高かった。こういう学

校や教科とのやりとりをメールでできる生徒は、そもそも科学にもスキルが高い可能性もあるが、理由はあきらかではない。全部で 180 通のメールに返信したが、全問正解がほとんどで定型文により返信できた。

## S 課題の利用率

後期は登校による通常 S と S 課題の併用期間があった訳だが、その期間の S 課題利用率を求めた。化学基礎では後期 S10～S12 参加総数 55 名のうち 18 名が S 課題を利用したので利用率は 32.7%であったのに対して、科学と人間生活では S11, 12 の参加者 250 名のうち 129 名が S 課題利用なので 51.5%と半数を超えた。

また、前期は登校による日 S 月 S を実施せずに全て S 課題で代替したので S 課題利用率は 100%ということになる。したがって年間を通じての S 課題利用率は化学基礎の場合 65.9%、科学と人間生活では 68.7%といずれも高く、今年度の必要時数は S 課題で満たされた生徒が多いことが分かる。

今年度は例年に比べると比較的早い段階で必要時数を満たした生徒が多く、S13 以降の登校者数が例年に比べてかなり少ないという結果にもつながった。

## メールでの質問受け付け

メールでの S 課題の提出を開始してからしばらくしてメールでの質問の受付も行う旨合格レポート発送の際に周知した。しかしこちらの利用はほとんど無かった。科学と人間生活で 3 件。化学基礎では無かった。これはメールで質問するためには分からない点についてはっきりと文章にする必要があるため、ハードルの高い作業である可能性があると考えた。電話や面接指導の場合はこちらで生徒が理解不足な点を探り把握した上で教えることができるために同じことをメールのやりとりで行うためには相当の回数

が必要になると考えられる。

## 今後に生かすために

今回のような事態が再び起こるかは不明だが、リモートで行うことができるような仕組みを作っておくことは必要だと考える。しかし前述の理由でメールでの質問などを活発に行うためには仕組みをつくるだけでは不十分であると感じた。今年度は Me-ラーニングに本来前期スクーリングで行うはずだった内容を説明動画にまとめて掲載したが、動画は一本あたりの内容をしばってなるべく 5 分以内になるように作成した。またこの取り組みは定通教研理科部会でもオンラインで発表し好評を得た。こういった自学自習に活用できるようなコンテンツの作成は有効だと感じた。